

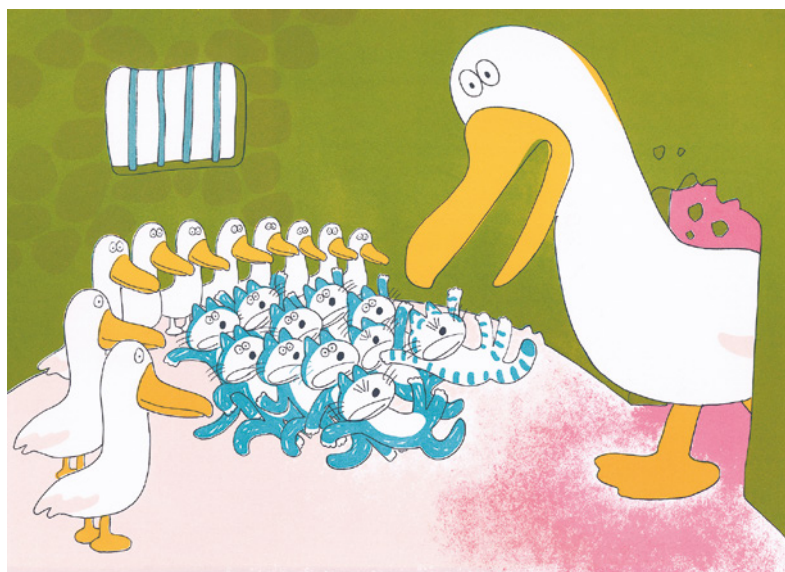
# NERIMA ART MUSEUM NEWS

2021

練馬区立美術館  
ニュース

練馬区立美術館  
NERIMA ART MUSEUM

25



## CONTENTS

- 03 — 館長あいさつ
- 04 — MUSEUM CALENDAR
- 06 — 展覧会紹介
- 11 — 2020年度新収蔵品紹介
- 14 — 教育普及事業のご案内
- 16 — 公募展のご案内
- 17 — 貸出施設について
- 18 — 施設案内
- 19 — 交通案内

## 独自の特別展示で魅せる2021

開館から36年を迎えた練馬区立美術館の2021年度の企画展覧会は5本になり、ラインナップは以下の内容になります。

ひとつめは、2021年4月30日から6月20日まで開催の「8つの意表」展(仮)です。普段は2Fのギャラリーを使用して、比較的小規模に開催されてきたコレクション展ですが、今年は美術館のギャラリー全館を使用しての開催です。これまで収蔵してきた美術作品の主だったものをユニークな切り口で紹介します。また例年通りに、冬にも小コレクション展「小林清親ーサブプリメントー(仮)」の予定で、今年度は二度のコレクション展を通じて当館所蔵の主だった作品をご紹介します。

そして、夏の企画ですが、7月25日から9月12日までは「馬場のぼる」展、続いて秋の企画では、9月23日から11月14日まで「ピーター・シス」展を開催します。馬場のぼる(1927～2001)は、『11ぴきのねこ』シリーズで知られた絵本作家です。漫画家を目指して青森から上京し、戦後に児童漫画の世界で人気者になりました。次第に絵本の世界まで活動の場を広げていきます。また練馬に居を構えた地元ゆかりの作家でもあり、馬場の全貌を絵本や漫画、資料約200点を通して紹介していきます。続くピーター・シスは、チェコ出身のニューヨークで活躍する画家で、新聞や雑誌、絵本などを媒体に活動して、ニューヨーク・タイムズが選ぶ年間ベストテンやパブリッシャーズ・ウィークリーのベストセラーリストに何度も名を連ねるほど。絵本『星の使者ガリレオ・ガリレイ』『かべ』など世界的に評価を受けています。本展では、絵本原画、スケッチなどの資料約150点でシスの世界を紹介します。

冬の小コレクション展「小林清親ーサブプリメントー(仮)」の後に、2022年2月6日から3月27日まで「生誕110年 香月泰男」展を開催します。香月泰男(1911～1974)は、近代日本洋画を代表する画家で、代表作に太平洋戦争とシベリア抑留の体験を描いた「シベリア・シリーズ」があります。本展では、東京美術学校時代から最晩年までの代表作をご紹介します。

今年も練馬区立美術館をお楽しみください。スタッフ一同心からお待ちしています。

2021年4月  
練馬区立美術館 館長 秋元雄史



# MUSEUM CALENDAR

2階 展示室 1

3階 展示室 2・3

2021 4

5

## 8つの意表 展

— 絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ —

2021年4月30日[金]～6月20日[日]

1

第67回 練馬区美術家協会展 2021年7月2日[金]～7月11日[日]

7

8

## 没後20年 まるごと馬場のぼる 展

描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!

2021年7月25日[日]～9月12日[日]

2

9

10

## ピーター・シスの闇と夢 展

2021年9月23日[木・祝]～11月14日[日]

3

11

12

所蔵作品による

## 小林清親 — サプリメント — 展 (仮)

2021年11月23日[火・祝]～2022年1月30日[日]

4

第53回練馬区民美術展 2021年12月18日[土]～12月26日[日]

練馬区中学校生徒作品展 2022年1月15日[土]～19日[水]

練馬区小学校連合同工展 2022年1月22日[土]～27日[木]

練馬区小中学校連合書きぞめ展 2022年1月29日[土]～30日[日]

2022 1

2

## 生誕110年 香月泰男 展

2022年2月6日[日]～3月27日[日]

5

4

※ 新型コロナウイルス感染症等の影響により、展覧会の会期および内容が変更になる場合があります。  
ホームページ等でご確認ください。

## 8つの意表展

— 絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ —

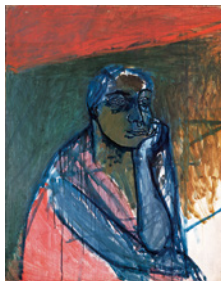
会期：4月30日[金] — 6月20日[日]

「意表をつく」という言葉があります。おおむね「相手の予期しないことをする」という意味で用いられますが、「意表」は字義に近く「こころをあらわす」という意味で使われることもあります。本展ではこれをキーワードに、当館コレクションより練馬にゆかりの深いアーティストを含む下記8名を選びました。近現代にユニークな足跡を残した彼ら、それぞれの二重の意味での「意表」を複数の個展形式で観覧します。

- ・大沢昌助(1903～97)は東京の生まれ。1943年に二科会会員となる。戦後は、日本国際美術展、現代日本美術展、国際形象展などで活躍。
- ・古沢岩美(1912～2000)は佐賀県の生まれ。上京後、豊島区にあった「長崎アトリエ村」で画家たちと交流。シュルレアリズムに学んだ作品等で注目を集める。
- ・野見山暁治(1920～)は福岡県の生まれ。1952年に渡仏。1958年に安井賞を受賞。練馬区にアトリエを構え、現在も旺盛に制作を続ける。
- ・小野木学(1924～76)は東京の生まれ。1959年シュル美術賞展で第二席。「風景」をテーマに、モノクロームを基調とした絵画を探索。長く練馬区に在住。
- ・草間彌生(1929～)は長野県の生まれ。1957年に渡米。《無限の網》やソフト・スカルプチュア等で注目を浴びる。パフォーマンスや小説・詩作でも才能を発揮。
- ・中村宏(1932～)は静岡県生まれ。日本アンデパンダン展、現代日本美術展、国際青年美術家展等に出品。社会問題や心象風景をモチーフに国内外で活躍。練馬区に在住。
- ・近藤竜男(1933～2019)は東京の生まれ。1961年から2001年までニューヨークに在住、独自のモノクローム的抽象絵画を探索。以後練馬区に在住した。
- ・籾木昌弥(1938～)は東京の生まれ。30歳の頃に練馬区に在住。1970年の初個展で鉛筆画による作品を発表し、その後幻想的な作風を展開。

明治末年から令和にいたる、激動する日本を生きてきたアーティストたちが、どのようにして社会と自己を見つめ、「意表」を行ってきたかを紹介します。

観覧料：一般 500円



左：野見山暁治《アニタ》1955年 油彩、カンヴァス  
中：草間彌生《自画像》1955年 エッチング、紙  
右：古沢岩美《燃えるキャンバス》1969年 油彩、カンヴァス

## 没後20年 まるごと馬場のぼる展

描いた つくった 楽しんだ ニャゴ!

会期：7月25日[日] — 9月12日[日]

絵本「11びきのねこ」シリーズで知られる漫画家、馬場のぼる(1927～2001)を様々な側面から紹介する展覧会を開催します。

馬場は青森県三戸町に生まれ、漫画家を目指して上京。1950年には少年誌でいち早く連載漫画を手がけ、手塚治虫、福井英一とともに「児童漫画界の三羽ガラス」と呼ばれるほどの人気を博しました。漫画界の主流が児童漫画から活劇モノに変化し始めると、大人向けの漫画雑誌に連載しながら、徐々に絵本に活動の場を移します。1967年に刊行された『11びきのねこ』(こぐま社)はロングセラーとなり、現在まで絵本のみならずキャラクターグッズや人形劇など、様々な媒体で人気を誇っています。

馬場は1952年から亡くなるまで約50年間練馬区に居住した、地域ゆかりの作家でもあります。自宅には膨大な日記やスケッチブックが残されていました。これら資料の中からは、街で見かけた人々や庭の花、新作のアイデアなど、日々の視点や試行錯誤の跡が垣間見られます。

本展では、絵本や漫画を紹介するとともに、50年分のスケッチブックや、楽しみのために制作した絵画、立体作品などを紹介し、人としての馬場のぼるにまるごと焦点を当てます。「描いてつくって楽しんだ」一人の漫画家の軌跡をご覧ください。

観覧料：一般 1,000円



左：『11びきのねことぶた』(こぐま社) 1976年刊  
印刷原稿(特色刷り校正用リトグラフ・紙)  
右上：「フウタン」『幼年ブック』(集英社) 1954年掲載  
漫画原稿(墨、水彩等・紙)  
右下：《スケッチブック》制作年不詳 インク、水彩・紙

## ピーター・シスの闇と夢 展

会期：9月23日[木・祝] — 11月14日[日]

2012年に国際アンデルセン賞の画家賞を受賞した絵本作家、ピーター・シスを紹介します。1949年、旧チェコスロバキアのブルノに生まれたシスは、ブラハの美術工芸学校とロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで学び、短編アニメーションの制作でその才能を広く認められます。1982年には政府よりロサンゼルス・オリンピック(1984年)の映像制作のため派遣されますが、祖国を含めた東側諸国がオリンピックのボイコットを表明したことにより、アメリカへの亡命を決意します。アメリカへ移住した後はニューヨークに拠点を定め、新聞、雑誌、絵本などのジャンルを中心に活躍しています。

ニューヨーク・タイムズ紙が選ぶ年間ベストテンや、パブリッシャーズ・ウィークリーのベストセラーリストの常連となったシスは、絵本『星の使者ガリレオ・ガリレイ』(1996年)においてアメリカの優れた絵本に与えられるコルデコット賞推薦を受け、次点となります。2007年には自伝に基づく絵本『かべ 鉄のカーテンのむこうに育って』を発表し、チェコ出身の絵本作家として世界的な評価を確立します。2014年には『星の王子さま』にも挿絵を手がけ、サン＝テグジュペリの名作に新たな解釈を提示しました。

本展では、アニメーション作品からオブジェ、絵本原画、スケッチなど様々な作品や資料など約150点により、シスの幅広い創作活動と、シスの作品の土壌となったチェコの文化の魅力をご紹介します。

観覧料：一般1,000円 巡回予定：伊丹市立美術館、他



©Peter Sis, 1994



©Peter Sis, 2014

左：『三つの金の鍵』原画 1994年

右：『飛行士と星の王子さま：サン＝テグジュペリの生涯』原画 2014年

所蔵作品による  
小林清親 —サプリメント— 展(仮)

会期：11月23日[火・祝] — 2022年1月30日[日]

小林清親(弘化4~大正4・1847~1915)は“最後の浮世絵師”とも呼ばれる、明治期を代表する浮世絵師です。明治8年にデビューをしますが、その登場は鮮烈でした。淡く明るい色調と光と影、天候や時間をも表現した、まるで水彩画のような東京名所シリーズは“光線画”と呼ばれ、人々の絶賛を浴びました。それ以降も、戦争画や歴史画、カリカチュア、戯画などを描き続け、浮世絵の終焉の美を飾ると共に、明治生まれの若い芸術家たちに大きな影響を与えました

当館では2015年4月に「小林清親展 文明開化の光と影をみつめて」を開催しました。これは清親の没後100年を記念して開催した展覧会で、そのデビューから最晩年まで、版画、肉筆画、スケッチ、遺品等300点で清親の生涯を辿るものでした。この展覧会が機縁となって、清親の作品や遺品を300件以上、寄託作品として受けることとなりました。その中には、世に“小林清親写生帖”として知られ、清親の光線画の源泉となったスケッチブックや未公開の下図や肉筆画、印章などの遺品が含まれています。この展覧会ではそうした未紹介・未公開の貴重な作品、資料を数多く含め、2015年のサプリメント(補遺)として開催する小林清親展です。

観覧料：無料(会場は2階展示室のみ)



左上：《第二回内勲業博覧会内美術館噴水》1881年 大判錦絵

右上：《九段坂五日夜》1880年 大判錦絵

左下：《写生帖》1878—1913年 水彩、紙 9冊

左下：印章 五顆

会期：2022年2月6日[日] — 3月27日[日]

太平洋戦争とシベリア抑留の体験を描いた「シベリア・シリーズ」で、戦後洋画史に確固たる地位を築いた香月泰男（1911～74）。57点の油彩画からなるシベリア・シリーズは、応召から戦地での日々、シベリア抑留、そして復員まで、画家が体験した出来事の順番に沿って紹介されるのが一般的です。しかし実際には「物語」のはじまりともいえる、下関港から大陸へ出航する場面が、他の作品よりも後に描かれるなど、当初から一貫した連作として構想され、描かれたものではありませんでした。

本展覧会は、東京美術学校時代から最晩年まで、シベリア・シリーズを含む各年代の代表作を制作年順に展覧し、香月泰男の画業の全容を紹介します。「一大叙事詩」として読み取られることの多いシベリア・シリーズを「解体」し、同時期に制作された他の作品と併せてご覧いただくことで、画家の創作活動における同シリーズの位置づけを再検証し、これまで「シベリアの画家」としてのイメージに隠れがちだった香月芸術の多彩な魅力に迫ります。

観覧料：一般 1,000円

監修：山口県立美術館、香月泰男美術館 企画協力：一般社団法人インディペンデント



《北へ西へ》※シベリア・シリーズ 1959年 油彩、キャンバス 山口県立美術館

## 2020年度新収蔵品紹介

作品：計50件（寄贈）



桂 盛仁  
（かつらもりひと・1944生）  
新収蔵作品9件



右：《蛙 帯留金具》2005年 金、赤銅 2.0×3.8×0.8cm  
左上：《木菟 香爐》1993年  
四分一、赤銅、金、銀 8.0×12.5×10.5cm  
左下：《飛蝗 香盒》2009年 赤銅、金 径6.7×3.2cm

### 桂 盛行

（かつらもりゆき・1914-1996）  
新収蔵作品5件



《鯖 帯留金具》1986年  
金、銀、赤銅、四分一 7.0×3.0×1.5cm



《白牡丹 帯留金具》昭和初期 銀、金 2.3×3.5×0.8cm

### 桂 光春

（かつらみつはる・1871-1963）  
新収蔵作品1件

二代豊川光長  
(とよかわみつなが・1851-1923)  
新収蔵作品 1 件



《蛤に観 金具》大正初期  
銀、赤銅、四分一 2.1×4.1×0.7cm



上：《向日葵》1976年 油彩、キャンバス 72.7×53.0cm  
下：《二つの薔薇の壺》1971年  
油彩、キャンバス 53.0×72.8cm

中川一政

(なかがわかずまさ・1893-1991)  
新収蔵作品 2 件



《立雛図》明治時代後期  
絹本着色 101.5×32.57cm

小林清親

(こばやしきよちか・1847-1915)  
新収蔵作品 1 件

寺田真由美

(てらだまゆみ・1958生)  
新収蔵作品 30 件



上左：《white chair 150701pa》2015年 ビグメント・プリント 102.0×139.0cm

上右：《peach juice 150101p》2015年 ビグメント・プリント 56.0×41.0cm

下左：《Mr.Jones》1985年 ミクストメディア

下右：《umbrella and door 041001》2004年 ゼラチン・シルバー・プリント 57.0×43.0cm



《暹照 84-A》1984年 木、鉄、布、顔彩 260.0×272.0×15.0cm

空田たけを

(もくたたけを・1910-1987)  
新収蔵作品 1 件

## 教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、なりま区報(30名以上の募集事業)および美術館ホームページに開催1ヶ月前から掲載します。また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

### 展覧会を様々な角度から楽しむ /

#### 展覧会関連事業

ギャラリートーク、実技講座・ワークショップ、講演会、  
コンサート・パフォーマンス、鑑賞プログラム「トコトコ美術館」  
(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



#### ギャラリートーク

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展覧会についてお話しします。

#### コンサート

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



#### 「トコトコ美術館」

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。初めての美術館に!



#### 実技講座

展覧会に合わせて絵画や版画、彫刻、工芸など本格的な作品作りに取り組みます。



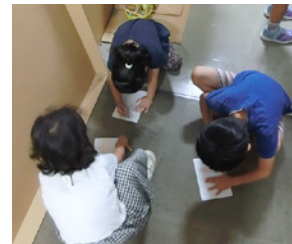
### 人が集う場作り /

#### 美術館を楽しむワークショップ

館内探検(5歳～小学2年生対象、年1回8月開催)  
所蔵品カードで遊ぼう!(小学生～大人対象、年1回12月開催)  
おでかけ美術館(小学4～6年生対象、年1回3月開催)

#### 「美術館をつかまえる!? 館内探検とフロッタージュ」

毎年夏休みにバックヤードの探検を行っています。フロッタージュしながら館内を巡り、採取した用紙を綴じて美術館標本として持ち帰ります。



### 美術館の施設及び展覧会を学校の学習に /

#### スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム  
内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



#### 美術館サポーターの活動

現在28名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、練馬ゆかりの作家調べなどです。



## 公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。令和3年度は、9月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、9月1日号(予定)のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

### 第53回 練馬区民美術展

#### 会期

2021年12月18日(土)～26日(日)

#### 応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

#### 募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)

日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



展示風景



## 貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

### 区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※2021年度の企画展示室の貸出期間は、

11月23日(火・祝)～11月28日(日)／11月30日(火)～12月9日(木)、および  
1月4日(火)～1月13日(木)の期間です。(2021年4月1日現在)

名称	面積	使用料	貸出条件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

### 創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	110㎡	30名	[午前] 10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル等
			[午後] 14:00～18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

## 施設案内

**開館時間** 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

**休館日** 毎週月曜日(ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)、年末年始(12月29日~1月3日)、展示替えなどによる準備期間中

**観覧料** 展覧会により異なります。詳しくは各展覧会ページをご覧ください。なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料でご覧いただけます。(年齢等の確認できるものを提示した場合に限る)

**図録の販売** 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもございますので、問い合わせください。

### バリアフリー

- 当館の展示室は2階・3階にございます。館内にはエレベーターを設置しております。
- 誰でもトイレを設置しております。
- 障害者の方は、当館のご利用に限り駐車場をお貸しできます。(事前予約制)
- 館内で利用いただける、車椅子・ベビーカーを用意しております。(数に限りがあります)
- 授乳室を設置しております。
- 受付に筆談ボードを用意しております。

### ご来館のみなさまへお願い

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、下記のとおりご協力をお願いいたします。

- 以下の症状がある場合はご来館をご遠慮ください。  
発熱(37.5℃以上)、頭痛、せき、のどの痛み、嗅覚・味覚の違和感、倦怠感
- 館内ではマスクをご着用ください。
- 手指消毒、トイレご利用後等のせっけん液での手洗いに協力ください。
- 展示室内では、隣の方と十分に間隔をとってご鑑賞ください。

### 友の会 会員募集!

展覧会にご招待 [同伴者1名OK]  
その他にも特典いっぱい♪ 年会費 2,500円

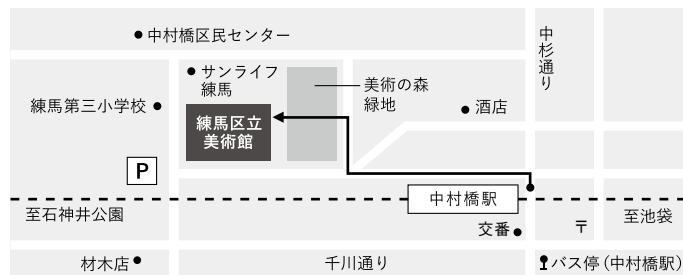


## 交通案内

**鉄道** 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

**バス** 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅《阿01》系統終点  
荻窪駅北口 — 中村橋駅《荻06》系統終点  
荻窪駅北口 — 練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車



※ 駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※ 障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

### 隣接する施設

#### 貫井図書館(1階)

練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

#### 美術の森緑地

美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。



練馬区立美術館  
NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821

<https://www.neribun.or.jp/museum/>

(公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています)

練馬区立美術館ニュース 第25号

発行: 練馬区立美術館 発行年月日: 2021(令和3)年4月1日

印刷: 山田写真製版所 デザイン: 星野哲也

